

あれから4年目をむかえて

●鈴木 篤(連絡会世話人・弁護士)

事故から4年が経ちました。しかし、問題はまだ何も解決していません。それどころか、この4年間、「事故隠し」「被害隠し」の方向で政策が取られ、世論誘導が行われてきた結果、問題はより陰湿で、深刻になっています。現在の問題を整理してみましょう。

- 1 未だに汚染が続き、福島県だけで10数万人、東北全県では20数万人が避難生活を送っているというのに、汚染の実情や、被害の実情が、ほとんど報じられることなく、忘れ去られ、原発被災者たちは、「棄民」状態におかれています。
- 2 このことと密接に関連して、放射能汚染とその危険性について、いつのまにか「官製」の情報と基準がまかり通り、人々は、自分がどんな危険の中で暮らしているか自覚しなくなっています。
- 3 そして、こうしたことの上に立って、原発再稼働という暴挙が強行されようとしているのです。

問題をこのように見ると、私たちが今やるべき課題がはっきり見えてきます

＜課題その1＞

現在の福島原発と、これによる各地の汚染、福島や東北各県の被害などの実情を、改めて被災者たちと連帯しながら、正確に把握し、それを人々に伝え被災者支援の輪を広げていくにはどうしていくか。

＜その2＞

原発や放射能汚染の危険性について「官製」の情報と基準の嘘をもう一度徹底して明らかにし、正しい知識を広げていくにはどうしていくか。

＜その3＞

こうしたことを通して、全原発廃止・原発再稼働反対の声を更に大きくしていくにはどうしていくか。

連絡会では、これらの課題を果たすべく、今年度の取り組みを進めていく予定です。そのためにも、世話人会は、常に開かれた場として、どなたにも参加頂き、貴重な経験や、意見を活かしていけるようにしたいと考えてい

◆情報ファイル◆

●4月24日(金)19:00～
チェルノブイリ29周年救援キャンペーン
鎌仲ひとみ講演会&コンサート
主催:チェルノブイリ子ども基金
会場:文京シビックホール
入場料2,500円

映像作家の鎌仲ひとみさんから「保養-子どもたちを被ばくから守るとりくみ」と題した講演、印田姉弟によるヴァイオリンとチェロのコンサートがあります。

●4月25日(土)13:00～
目標1万人のデモ行進 NO NUKES
NO WAR
http://www.idol-japan-records.net/ski/
主催:制服向上委員会
会場:日比谷野外音楽堂
入場料1,000円

ルールとマナーを守らない政治家たちの戦後70年の悪態にさよなら！子供と自然と未来のために。今、私たちが出来る事から始め、優しい気持ちと豊かな心を育む新しい日本を築きましょう！

●5月3日(日)12:30～
平和といのちと人権を！5・3憲法集会
～戦争・原発・貧困・差別を許さない
主催:5・3憲法集会実行委員会
会場:臨港パーク(横浜市)
私たちは、「平和」と「いのちの尊厳」を基本に、日本国憲法を守り、生かします。集団的自衛権の行使に反対し、戦争のためのすべての法制度に反対します。脱原発社会を求めます。平等な社会を希求し、貧困・格差の是正を求めます。人権をまもり、差別を許さず、多文化共生の社会を求めます。

●5月22日(金)18:30～20:30
市民電力連絡会2015連続講座
http://peoplespowernetwork.jimdo.com/
主催:市民電力連絡会
会場:エコギャラリー新宿
参加費 各回1,500円(会員1,000円)
市民・地域主導による再生可能エネルギー事業の普及に向けて、全6回の連続講座を企画しました。第1回のテーマは「日本のFIT、どうなる、どうする～欧州FITの現状と日本FITの課題」。手塚智子さん(市民エネルギーとっとり代表)、江口智子さん(弁護士)が報告します。

連絡会では、活動をお手伝いいただける方を随時募集中です。また、活動を続けていくためにカンパも大歓迎です。
◎郵便振替10140-92254391

●さようなら原発江戸川連絡会ニュースレター

連絡会だより

連絡会だより第18号 2015年4月10日

放射能は怖い？

いいえ、知らずに体に取り

入れる方が怖いです

ー測定結果から

●まとめ:市村智信(連絡会世話人)

最近では放射能関係のニュースが少なくなり、放射能という大変人扱いされることも多々ありますが、原発事故は少しも収束せず、ダダ漏れのまま悪化し、さらには人々から忘れ去られて悪化していると思います。

ここ1、2年である素晴らしい会社の社長さんに出会い、なんと無料で放射能測定をしていただき、7・8回程度放射能測定会を開き食品、土壌、尿、水、等を測定してもらってきました。そこで出たデータをお見せします。【上表参照】

またちょっと気を付ければかなり汚染を少なくできるお話を

非常に高い数値が出やすい食材はキノコ、タケノコ、レンコン、小松菜、にら、ほうれん草が高く、魚は最近の傾向としては大きな魚はほとんど検出されるようになっているみたいで、小さい魚は出れば何千ベクレルですが、食べて入った時のリスクが高いので、妊婦さんや子供は食べないに越したことはないと思っています。

もらった山本山の有明産のノリでも5ベクレル検出と確認しました。

まとめますと、食品は検査はほとんどしてなく、カリウムが高い食材に、カリウムと間違えられてセシウムが取り込まれ、カルシウムと間違えられてストロンチウムが取り込まれています。また、測定されているのもほぼ全てセシウムのみ。なので、それら栄養素が高い食材は産地を選んで購入するか、食べないということをするだけで放射能を体に入れなくて済みますので、是非、実行されてくださいね。

事故後久しぶりに実家に帰り、リビングのジュータンの放射能を測定したらなんと2.24マイクロシーベルトくらいありました。

●発行:さようなら原発江戸川連絡会
〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-22-10
トーアファンシービル4階
江戸川法律事務所気付
TEL 03-3653-7643 FAX 03-3653-7606
E-mail sayonara_g_edogawa@yahoo.co.jp
http://sayonara-g-edogawa.seesaa.net

	セシウム-134	セシウム-137
江戸川区南小岩の公園 花壇深さ約10cm	24.52(+/-7.86)	55.22(+/-14.87)
花壇上層	24.10(+/-7.80)	56.04(+/-15.06)
江戸川区清新町の公園 (一度入れ替えた事あり)	<3.84(+/-2.11)	6.09(+/- 2.66)
茨城県五霞町	—	3.17
目黒区下目黒	10.42	61.83
千葉県片貝海岸	2.24(+/-0.82)	—
江戸川区内の幼稚園	118.01(+/-14.7)	436.47(+/-51.51)

測定結果(単位はベクレル)

びっくりして、ほこりに放射能はついているということを出し、慌ててでも、丁寧に掃除機をかけたところなんと0.17マイクロシーベルトくらいまで下がりました。

0.17マイクロシーベルトでも高いのですが、初めて出た数値が高すぎだったのでやはり掃除をすればかなり下がるのだと確信し、それから、当時赤ちゃんがいたので、掃除は嫌いだったのですが、毎日やらざるを得なくなりました。今では毎日しますし、かけるときは一日二回掃除機かけています。

また、ジュータンですが、1、2年使っていると掃除機をかけてもどうしても0.20マイクロシーベルト以下に下がらなくなります。それで、二回ほど捨てて買いなおしています。

買いなおせば初めは0.05マイクロシーベルトくらいまで下がるのですが、それでもだんだん上がってきてしまいますので、今も6か月の赤ちゃんがいるので、自分の基準は0.1μシーベルトは欲しいのですが、それだと、毎年二回くらい買い換えないといけないので、経済的理由で0.15マイクロシーベルト以下くらいから下がらなければ買い換えるようにしてます。

江戸川区は土壌汚染が今でも結構高いので、小学6年生が木登りやそこらへんに座ったりして持って来てしまっているのかなと思ってはたいて入ってくるようにとは言うてはいるものの無理なので、掃除機かけを頑張ります。

2015年3月3日付朝日新聞に、鈴木篤さんの著書『私は日本国憲法です』が紹介されました。



さようなら原発江戸川連絡会ニュースレター 連絡会だより 第18号
〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-22-10 トーアファンシービル4階
江戸川法律事務所気付
TEL 03-3653-7643 FAX 03-3653-7606

「日本と原発」「飯舘村わたしの記録」2本のドキュメンタリー映画上映会および長谷川健一氏講演会を実施して。

●増村聡雄さん(会員・葛飾区在住)



これ1本で原発を取り巻くすべての問題を提起します。映画鑑賞後、ご自身でご判断ください。

有名企業を取り巻く多くの難問で勝ち続け、核廃止を叫ぶ河合弘之。

しかし、河合の人生後半戦の一大事業と位置つけた原発訴訟は、負け続けた。

何年経っても、どんなに方法論を工夫しても、勝てなかった。逆勝訴と呼ばれるタフな河合だが、負け続ける原発訴訟にその意志は弱まっていた。

そして、2011年3月11日。東京電力福島第一原子力発電所で原子力発電史上最大の事故が起きた。河合は決心した。「絶対にあきらめない」。

これは、弁護士河合弘之と盟友弁護士海渡雄一、訴訟を共に闘う木村純の3人が、多くの関係者、有識者にインタビュー取材を行い、現地での情報収集や報道資料等を基に、事故に巻き込まれた人々の苦しみ、原発事故を引き起こした背景、改善されない規制基準、エネルギー政策のウソと真実を追求したドキュメンタリーである。

「勝利はたったひとりで、正義をかけて闘える民主主義社会の安全を争いたいものだ。だから、僕はひとりでも闘う。でも、それだけじゃ、みんなに伝わらない。ひとりでも多くの人に真実を伝えるには、やはり、映画しかない」(河合弘之)。



さる2015年2月22日(日)表参道の東京ウィメンズプラザホールで、標記上映&講演会を開催しました。私は実行委員として関わったのでその報告をいたします。当日は日曜日の都心であり、あいにくの雨模様で参加者の数が危ぶまれましたが、140人収容の会場に「日本と原発」に関しては2回の上映に、有料入場者211名の参加で盛況のうちに終了しました。

主催は原子力資料情報室と、私が参加している飯舘村写真展実行委員会でした。実行委は飯舘村の酪農家長谷川健一さんが撮り貯めた写真を、広く観てもらうため2012年9月に立ち上げられ、2013年1月からPART I (事故前および事故後の様子)、2014年9月からはPART II (除染後の状況)を全国で巡回展示しています。福島原発事故の風化が言われ、福島と首都圏、東日本と西日本との距離感が広がってきています。福島事故は終わっていません。長谷川さんは講演の終わりに「飯舘村は東北電力から電気の供給を受けています。首都圏の皆さんは福島第一も含む東京電力の供給を受けてきました。東京電力の事故でなぜ私たちが苦しまなければならないのでしょうか?」と切々と訴えられました。私たちは今一度この思いを真摯に受け止める必要があると思います。

「日本と原発」は長い間原発訴訟に携わってきた、河合弘之の弁護士が監督をし、海渡雄一弁護士が構成・監修をし

て作成されました。いわく「なぜ、弁護士がドキュメンタリー映画を作らねばならなかったのか?」

今こそ「ひとりでも多くの人に真実を伝えたい」という思いで完成された映画です。原発問題を各論に分け丁寧に説明した映画となっています。河合弁護士自ら京大原子炉実験所の小出裕章氏、元原発製造技術者田中三彦氏、環境問題専門家飯田哲也氏、元通産官僚古賀茂明氏、馬場浪江町長などにインタビューしながら、ホワイトボードにまとめの整理をするという形で、分りやすい構成となっています。事故後、国民が「やはり原発はダメだ」と「脱原発」に多く動いたにもかかわらず、時間の経過や安倍政権誕生以来の「再稼働や原発輸出、まやかしのアンダーコントロール」の動きがニュースとなり国民の判断も揺らぎ、何よりも記憶が薄れ始めています。こうしたときに論点の整理をし、「脱原発」を確信するには時宜を得た教育的映画だと思います。全国での自主上映は「日本と原発」ネットサイトを見れば、今まさに活況を呈している感があります。ぜひ私たちの地域でも上映会を実施していきたいものです。その際は長谷川さんの写真展もロビーなどで展示していただければ、より「福島」が身近に感じられると思います。ぜひ企画・実施していきましょう。

飯舘村写真展FBサイト

→<https://www.facebook.com/iitate.photo.Ex>

さようなら原発江戸川連絡会 第4回総会報告

●藤居阿紀子(連絡会世話人)

昨年のことになりますが、11月30日(日)15時から、連絡会の第4回目総会が開催され、22名の出席があり、2014年の活動まとめと、2015年度の活動計画を決定しました。

2014年度は、1000万人署名に継続して取り組むと共に、2月には107名の参加を得て、映画「未来への決断、私たちの選択」の上映会と元巻町町長の笹口孝明さん、元東海村村長の村上達也さんをお招きしてのパネルトークを行いました。7月には、「福島からの報告～それでも罪に問えないのですか」と題して、福島原発訴訟団団長の武藤類子さん、弁護士の保田行雄さんと告訴人の木幡ますみさんから報告会を開催し、79名の参加がありました。

1000万人署名については、駅頭署名をすることはできませんでしたが、個人レベルでの取り組みをつづけ、一定の数を集めることができました。

2回の企画では、どちらも、原発問題に直接かかわる当事者自身による現地・現場からの報告、問題提起であったことから、連絡会だけではなく、地域の関連団体とも連携して取り組むことができました。また、DVDとして記録を残すことができました。

課題としては、9月に予定していた山田真医師の講演会を開催できず、世話人の中に「江戸川憲法を読む会」と重なっているメンバーが多いことなど、今後、新たな世話人を増やすことが必要と確認しました。また、せっかく作成したDVDが活用できていないことから、若者にも「面白い」と言ってもらえるよう、2枚のDVDを大胆に編集することを検討することになりました。そこで、設立のとき確認した連絡会

の位置づけを再確認し、原点に立ち返り、新たなメンバーも加えて、今後の企画やDVDの活用をすすめていくことが重要ではないかとの結論にいたりしました。

2015年度活動計画では、①「さようなら原発1000万人署名」について個別に継続すること、②講演会、学習会、交流会の企画開催、参加団体や個人の取り組みを、連絡会としてもバックアップして、多くの人に広げること、③学生など若者が企画する学習会などの機会を提供し、資金面、資料収集、会場確保や告知などをバックアップすること、④若

記念講演 平野先生＋増子さん

●平野敏夫先生(ひまわり診療所)

2011年6月に現地で健康相談会を山田真医師等と共にに行った。福島県の現地と東京に避難してきている人の相談会を行ってきました。放射能や癌の専門家ではないので、話を聞いているだけなのですが。低線量被爆の影響や、避難する前に給水所で並んでいて被爆した分の心配などをお聞きしてきました。初めの頃の相談会は雰囲気明るかったのが、回を重ねるごとに参加者も減り、避難できない人が残り深刻な相談が増え、今は避難した方がいいとは言わないようにしています。大熊町の避難者のところにも行き健康相談会を開いています。

●増子理香さん(ココロとカラダを育てるハッピープロジェクト代表)

私は福島県の三春町から母子で自主避難をしております。今年の春には(2014年春)三春町の家玄関前で0.4μシーベルトありました。2011年の5月に東京の東大和市に避難してきましたが。当時のことを考えると、ガソリンがなかったとか納豆がなかったとかありましたが、福島では物流が止まりました。東京では待っていればそのうち入ってくる状態でしたが、福島県ではよその友達が何かを送ってきてくても、福島県との県境で宅急便が止まってしまう。だから親族や友人の助けも届きませんでした。福島県は原発事故の影響を語られることが多いですが、実は地震の被害もかなり大きなものがありました。

道のコンクリートが波の様に揺れ、液状化は郡山はあまりありませんでしたが、マンホールから水が噴火のように出ていることも非常に多かったです。ショッピングモールではその建物自体は大丈夫でもスプリングラが誤作動してしまったために、食料や商品が全部だめになってしまい閉鎖されてしまいました。郡山の惨憺たる状態を見た後、三春町に帰ったところ全然平気でびっくりしました。当時は私は東京から福島に嫁に来て、放射能のことはまったく知らなかったです。同じ三春町の武藤類子さんとお友達で、原発事故後にこういった活動をされてきた方だと知り、4月に郡山で武藤さんが開いた放射能の勉強会に行きました。

感性や若者たちの力を借りて、2014年度の「未来への選択」と「告訴団」のDVDや、これまでの講演会やアクションの写真を活用し、新たな動画作成を検討すること、⑤広報活動について、連絡会便りの刷新、ITなどの活用をさらに追求すること、⑥世話人会は月1回開催すること、の6点が提案・了承されました。

なお、総会に続き、記念講演として、福島において住民の診察をつづけている平野先生と、東京で福島からの避難生活をしている増子理香さんの記念講演を行いました。



やっぱり人っていうのは知らないってことは本当に恐ろしいことだなと思いました。知って怖くなったんですね。知ると知らないのとでは人生は大きく変わると思ったんですね。知ってしまったら最後、最悪です。知らない方がよかったって思いました。そのあとは5月のゴールデンウィーク明けに東大和市に避難したんですけれども。

今避難してきているお母さんたちと一緒に2011年から「つながろう！放射能から避難したママネット」という活動をしていまして、それはお母さんたちのお喋りや繋がり場の場です。行政の個人情報に関する守秘義務によってなかなか繋がる事が出来ません。東京にはお年寄りから子供まで含めて7000人の避難者がいるなかのたったの120人しか、繋がっていません。健康や住宅や、健康保険の問題などがあり、ロビー活動も含めてNPOを立ち上げて改善できるように努力しています。子ども被災者支援法が2012年に出来ても、なら具体的な施行がされない状況を改善するため様々な団体と連携して要求しているところです。

<会場から質問>

質問:三春町はヨウ素を飲んだ結果どういった効果があったのでしょうか。

増子:調べられてないし、まず副作用の説明が恐ろしくてヨウ素を飲む決断するのが難しかったです。

あなたがた日本国民が、平和のうちに幸せな生活が送れるように、あなたがたを守るためにうまれてきました。
わたしを手放さないでください。わたしを葬らないでください。

鈴木篤著『わたくしは日本国憲法です。』

朗文堂／定価1,200円＋税